

研究発表もうしこみフォーム

氏名：バトエルデネ ダギーマー

氏名のローマ字表記：BAT ERDENE DAGIIMAA

所属：広島大学大学院 教育学研究科 博士課程後期

専門分野：教育学

発表のタイトル： モンゴル国における国際機関主導による教員研修

発表要旨（600字～800字程度）：

本研究の目的は、国際機関の援助および法定研修という観点から、モンゴル国における1990年代から2000年代までの教員研修の実施状況を明らかにし、その意義と課題について考察する。

1990年代初頭、モンゴル国は、ソ連からの経済援助の停止と市場経済移行直後の不況によって国際機関と諸外国からの経済援助に頼らざるを得ない状況に陥った。そのため、1991年からアジア開発銀行（以下、ADB）をはじめ14カ国から、新しい社会体制の構築のために援助を受けてきた。1992年に新憲法が制定され、1993年に教育を国の優先分野に位置づけられると、1991年から2007年までの間には、教育の条件整備と教育の質向上を目的としたADBの財政支援プログラム（総額4250万ドル）を受けた。この財政支援を受ける条件として教職員の人数削減が求められ、8千人以上の教職員が解雇された。これによって教職員不足はより深刻となり、都市と地方の教育格差を広げる一つ要因となったとされる。その一方で、ADBの援助によって1万人以上の現職教員研修が実施された。

ところで、1990年代以降のモンゴル国の教員研修に関する研究では、例えばТөрбaт(2012)は、モンゴル国成立後、社会主義時代に実施されていた5年に1度の1カ月間の研修が廃止されたことを指摘しているものの、2002年以降は、教員研修制度の紹介に留まっている。また、モンゴル国教育基礎情報報告書(2019)においても、2006年から2019年までの教員研修制度の変遷の紹介にとどまっている。ADB、UNESCOの報告書では、それぞれの機関がどのような財政援助を行ったかを記述しているものの、その評価について十分考察したものではない。

そこで、本研究は1991年に教員研修センターが活動を中止してから2008年までの18年間にモンゴル国における教員研修がどのように実施されてきたのかをADB、UNESCOの報告書やモンゴル国の関連法令の分析を通して明らかにする。